

北海道における国際会議等誘致の取組と現況について

平成28年9月1日
北海道



イランカラフテ

「こんにちは」からはじめよう。

イランカラフテ(アイヌ語のこんにちは)を北海道のおもてなしの合言葉に!

◆国際会議等の北海道開催推進に係る取組と方針



- 北海道では、2008年に開催された「**北海道洞爺湖サミット**」を契機に、**国際会議等の誘致に係る取組を強化**
- 海外との交流人口拡大のため、市町村やコンベンションビューローなど地域の関係者と連携し、官民一体となった戦略的な取組を推進

北海道における国際会議等誘致の取組

- ◆ 道内市町村や経済界などと連携し、「北海道国際会議等誘致推進会議」を設置(H20.9)
- ◆ 道庁内に「国際会議等誘致推進部会」を設置し、連携を強化
- ◆ 市町村やコンベンションビューローと連携した誘致活動の展開
- ◆ 知事名による招請レター発出

「国際会議等の北海道開催の推進について」 (H20.7.4 閣議了解)に基づく国からの支援

- ◆ 「国際会議等の北海道開催の推進に係る各省庁連絡会議」の開催(毎年)
- ◆ 各省庁と北海道関係者による「情報交換会」の開催(毎年11月頃実施)
- ◆ 大臣名等による招請レター発出

<北海道>

「輝きつづける北海道」

(北海道総合計画H28.3)

主要な政府間会議をはじめとする

**国際会議・学会等の北海道開催により、
北海道ブランドを戦略的・効果的に発信**

<国(北海道局)>

「世界の北海道」

(北海道総合開発計画H28.3)

- 「2030年にはアジアNo.1の国際会議開催国として不動の地位を築く」
(日本再興戦略2016)
- 「観光先進国の実現」(明日の日本を支える観光ビジョン) など

政府の目標達成に貢献

◆これまでの誘致活動の成果



北海道洞爺湖サミット以降における主な政府系国際会議の開催状況

2008年12月	第1回	G8水と衛生に関する専門家会合(外務省)	【帯広市】
2009年5月	第5回	日本・太平洋諸島フォーラム首脳会議(太平洋・島サミット)(外務省)	【占冠村】
2009年6月	第8回	日豪観光交流促進協議(観光庁)	【ニセコ町】
2009年6月	第7回	日ASEAN次官級交通政策会合(国土交通省)	【函館市】
2010年5月	第12回	日中韓三カ国環境大臣会合(環境省)	【千歳市・苫小牧市】
2010年6月		日本APEC貿易担当大臣会合(外務省、経済産業省)	【札幌市】
2011年5月	第15回	日・オーストリア21世紀委員会(外務省)	【小樽市】
2012年6月	第5回	日中航空政策対話(国土交通省)	【釧路市】
2012年10月	第13回	北東アジア港湾局長会議・シンポジウム(国土交通省)	【小樽市・札幌市】
2012年10月	第27回	日韓観光振興協議会(観光庁)	【函館市】
2013年11月	第13回	日中韓特許庁長官会合(特許庁)	【札幌市】
2014年2月	第11回	日ASEAN港湾保安専門家会合(国土交通省)	【札幌市】
2014年11月	第17回	米国との将来の航空交通システムに関するWG(国土交通省)	【札幌市】
2014年12月	第6回	日本・ニュージーランド会議(外務省)	【札幌市】
2015年1月		東アジア・オーストラリア地域・フライウェイパートナーシップ第8回パートナー会議(環境省)	【釧路市】
2015年9月	第7回	日ASEAN防衛当局次官級会合(防衛省)	【札幌市】

<参考:民間・学会主催の主な国際会議>

2013年7月	第8回	日中韓賢人会議	【洞爺湖町】
2013年12月	第11回	ニューロエソロジー国際会議	【札幌市】
2014年7月	第9回	国際反芻動物生殖科学シンポジウム	【帯広市】
2014年9月	第9回	日米協会国際シンポジウム	【札幌市】

◆国際会議の開催状況



北海道における国際会議の開催件数の推移と全国順位

年	2009年 (H21)	2010年 (H22)	2011年 (H23)	2012年 (H24)	2013年 (H25)	2014年 (H26)
件数	92	97	81	68	98	107
順位	9	9	8	9	8	7

(日本政府観光局(JNTO)「国際会議統計」)

北海道における国の機関等による国際会議の開催件数

年	2009年度 (H21年度)	2010年度 (H22年度)	2011年度 (H23年度)	2012年度 (H24年度)	2013年度 (H25年度)	2014年度 (H26年度)	2015年度 (H27年度)
件数	12	10	10	9	10	6	10

(国土交通省北海道局調べ)



北海道洞爺湖サミット(洞爺湖町) ※外務省提供



日本APEC貿易担当大臣会合(札幌市) ※外務省提供

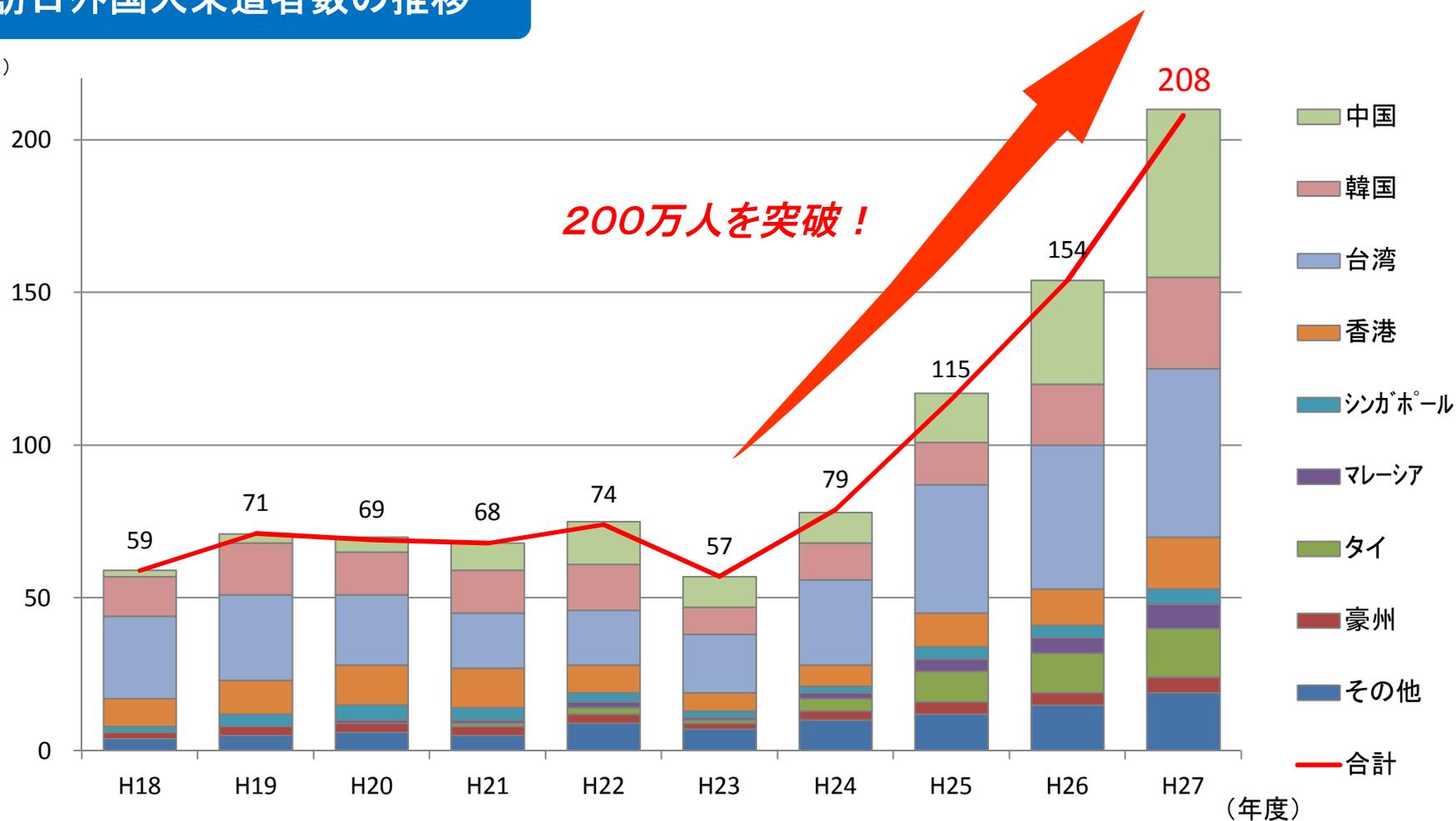
◆訪日外国人来道者数



- 平成27年度の訪日外国人来道者数は208万人となり、**初の200万人超え**
- 中国・韓国・台湾・香港・タイを中心に、多くの国・地域で前年比大幅増

訪日外国人来道者数の推移

(万人)



◆ 交通アクセス ～国際航空路線～



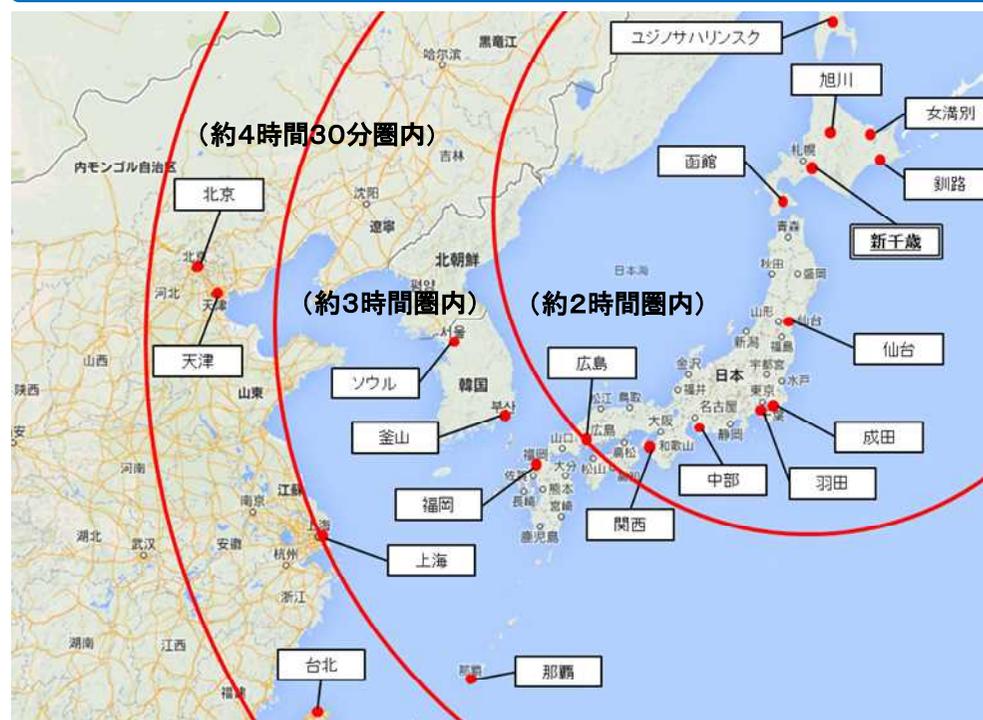
- 道内空港(新千歳・函館・旭川)に発着する国際定期航空路線は19路線
- **北京・ソウルからのアクセスが便利**(地方空港の中ではトップクラス)

道内空港の国際定期航空路線

空港	路線	航空会社	便数(週)	運航日
新千歳	ソウル線	大韓航空	14便	毎日2便
		ジンエアー	7便	毎日
		ティーウェイ航空	7便	毎日
		アジアナ航空	7便	毎日
		チェジュ航空	7便	毎日
	釜山線	大韓航空	3便	火・木・土
	エアブサン	5便	月・火・木・金・日	
	北京線	中国国際航空	5便	火・水・金・土・日
	天津線	天津航空	2便	金・日
	上海線	中国東方航空	5便	火・水・金・土・日
	春秋航空	5便	火・水・金・土・日	
	香港線	キャセイパシフィック航空	10便	毎日(月・木・土は2便)
	香港航空	5便	火・水・金・土・日	
	台北線	エバー航空	14便	毎日2便
	チャイナエアライン	7便	毎日	
	トランスアジア航空	3便	月・火・金	
	高雄線	チャイナエアライン	5便	火・水・金・土・日
	バンコク線	タイ国際航空	6便	月・火・水・金・土・日
クアラルンプール線	エアアジアX	5便	月・水・金・土・日	
グアム線	ユナイテッド航空	2便	月・金	
ホノルル線	ハワイアン航空	3便	水・金・日	
ユジノサハリンスク線	オーロラ航空	2便	水・土	
函館	台北線	トランスアジア航空	2便	水・木
		エバー航空	6便	月・火・水・木・土・日
	タイガーエア	5便	月・火・水・金・日	
天津線	天津航空	2便	火・木	
旭川	ソウル線	アジアナ航空	2便	水・土(季節運航)
	北京線	中国東方航空	3便	月・水・土
	上海線	中国東方航空	3便	火・木・日
		春秋航空	2便	月・木
	台北線	トランスアジア航空	2便	土・日
エバー航空	2便	火・金(季節運航)		

※平成28年8月現在

新千歳空港から主要空港への所要時間



国内線(各都市とのアクセスも充実)



※新千歳空港から札幌駅までは、JR快速エアポートで **最速37分**



◆交通アクセス ～北海道新幹線の開業～

- 本年3月に北海道新幹線が開業(新青森～新函館北斗間)
- 通年での安定した大量輸送が可能

北海道新幹線の概要

東京～新函館北斗間

1日10往復

最短4時間2分

※仙台・盛岡・新青森～新函館北斗間 各1日1往復



新函館北斗駅からの主なアクセス

<函館方面> (快速約15分、普通約19分)

アクセス列車「はこだてライナー」

特急列車「スーパー北斗」「北斗」

普通列車

※このほかバス路線もあり

<札幌方面>

(札幌まで約3時間30分)

特急列車「スーパー北斗」「北斗」

普通列車

バス 大沼・鹿部線

バス 大沼流山牧場行 (大沼公園方面)

都市間高速バス 函館特急ニュースター号・高速はこだて号

新函館北斗駅

函館駅

札幌

近隣のコンベンション施設

■ 函館アリーナ

- ・2015年8月オープン
- ・函館空港から車で10分、湯の川温泉至近
- ・最大5千人収容のメインアリーナをはじめ、サブアリーナ、武道館、多目的会議室等を整備
- ・市内には、函館山からの夜景や異国情緒漂う町並みなど、外国人にも人気の観光スポットが多数あり



◆道内の主なコンベンション施設



札幌

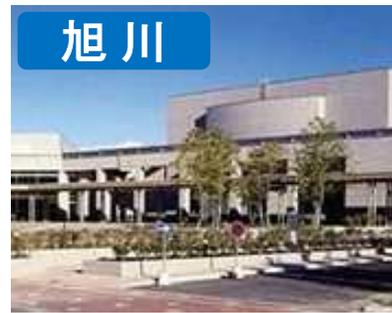
◆札幌コンベンションセンター

- 主要施設
 - ・大ホール: スクール1,200人、シアター2,500人
 - ・中ホール: スクール272人、シアター600人
 - ・特別会議場: スクール272人、シアター700人
- 主な開催実績
 - ・2010APEC貿易担当大臣会合
 - ・第19回国連軍縮会議



◆かでの2・7 [道立道民活動センター]

- 主要施設
 - ・かでのホール: 固定席521人
 - ・大会議室: スクール216人、口の字78人
- 主な開催実績
 - ・第6回日本・ニュージーランド会議
 - ・第17回FATS



旭川

◆旭川大雪クリスタルホール

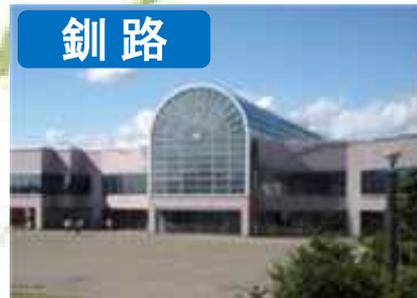
- 主要施設 (国際会議場)
 - ・大会議室: スクール180人、シアター300人
 - ・レセプション室: 立食100人



北見

◆北見芸術文化ホール

- 主要施設
 - ・中ホール: 固定席420人



釧路

◆釧路市観光国際交流センター

- 主要施設
 - ・大ホール: スクール1,200人、シアター1,500人
 - ・視聴覚室: スクール63人、シアター100人
- 主な開催実績
 - ・ラムサール条約締結国会議
 - ・東アジア・オーストラリア地域
フライウェイパートナーシップ



函館

◆函館アリーナ

- 主要施設
 - ・メインアリーナ: スクール2,279人、シアター5,000人
 - ・サブアリーナ: スクール696人、シアター1,044人
 - ・武道館、多目的会議室



◆その他地域の施設・開催実績

◆ザ・ウィンザーホテル洞爺(洞爺湖町)

- ・北海道洞爺湖G8サミット
- ・第8回日中韓賢人会議

◆星野リゾートトマム(占冠村)

- ・第5回太平洋・島サミット (注: 開催時は「アルファリゾート・トマム」)

◆とがちプラザ(帯広市)

- ・第1回 G8水と衛生に関する専門家会合

◆ヒルトンニセコビレッジ(ニセコ町)

- ・第8回日豪観光交流促進協議



<ザ・ウィンザーホテル洞爺>

◆ユニークベニュー・エクスカーシオン



モエレ沼公園ガラスのピラミッド(札幌)



彫刻家イサム・ノグチが設計し、「全体を一つの彫刻作品とする」というコンセプトのもとに造成。雪冷房を利用した園内のガラスのピラミッドでは、緑と調和した幻想的なパーティーが楽しめる。

札幌市内エクスカーシオン例(半日コース)



①北海道神宮



②大倉山展望台



③白い恋人パーク



④サッポロビール園(食事)

雪の美術館(旭川)

建物から展示まで全て雪をイメージして造られた美術館。館内のカフェでは、少人数から最大100名まで食事が可能。近隣には、北海道を代表する染織工芸品である優佳良織(ゆうからおり)の工芸館などが併設。



北海道博物館(愛称:森のちゃれんが)(札幌)



2015年4月に北海道博物館が開館(北海道開拓記念館と道立アイヌ民族文化研究センターが統合し、新たに開設)



<展示コンセプト>

3つの新しい視点

「北東アジアの中の北海道」、「自然と人との関わり」というコンセプトに加え、「アイヌ文化の歴史性」という視点を取り入れ、北海道の自然、歴史、文化を描く。

5つのテーマ

- 1階から2階にかけて、5つのテーマを展開
- ・第1テーマ:北海道120万年物語
 - ・第2テーマ:アイヌ文化の世界
 - ・第3テーマ:北海道らしさの秘密
 - ・第4テーマ:わたしたちの時代へ
 - ・第5テーマ:生き物たちの北海道

函館山ロープウェイ山頂施設(函館)



函館山の山頂から望む市街地の夜景は、香港、ナポリと並ぶ世界三大夜景の一つ。夜景を眼下に思い出に残るレセプションパーティーが楽しめる。

SL冬の湿原号(釧路~標茶)

地元ガイドが乗車し、広大な釧路湿原や、特別天然記念物のタンチョウなど、沿線の自然を紹介。



ワッカ原生花園(北見市常呂)

オホーツクとサロマ湖を分ける砂洲の中にある原生花園。300種を超える花が群生し、可憐な花を咲かせている。



<アクセス>

■札幌市内から車で35分 ■新札幌駅からバスで15分



◆北海道の自然・文化



■ 札幌:開拓史時代の洋風建築
(札幌時計台、豊平館ほか(北海道遺産))



■ 稚内港北防波堤ドーム
(北海道遺産)



■ 旭川:旭山動物園



■ 紋別:流水とガリンコ号
(北海道遺産)



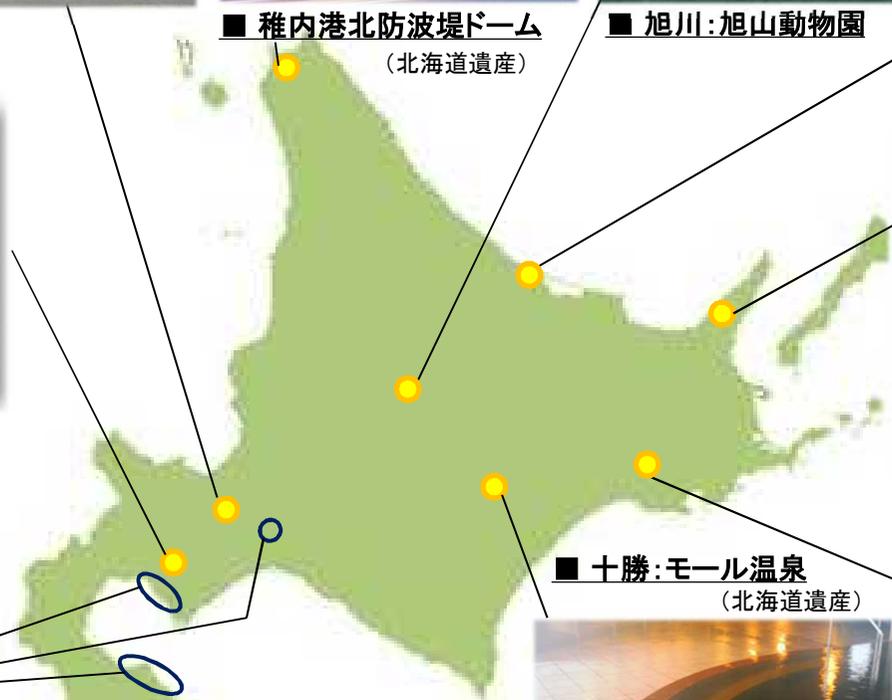
■ 洞爺湖有珠山ジオパーク
(2009.8 日本初の「世界ジオパーク」登録)



■ 北海道・北東北を中心とした縄文遺跡群
(2009.1 世界遺産暫定一覧表記載)



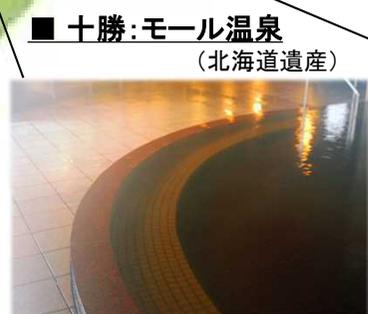
■ 函館の夜景



■ 知床 (2005.7「世界自然遺産」登録)



■ 釧路湿原
(1980.6 日本初のラムサール条約登録湿地)



■ 十勝:モール温泉
(北海道遺産)



北海道遺産
次の世代に残したい北海道の宝物

次の世代へ引き継ぎたい有形・無形の財産の中から、北海道民全体の宝物として選ばれた52の遺産

◆国際会議等の誘致に係る推進体制



北海道MICE誘致推進協議会

- 国内外の学術団体・企業等のコンベンション主催者に対し、北海道の良質なコンベンション環境を紹介し、北海道へのコンベンション誘致の推進に資することを目的として、1993年に設立。
- 現在は、札幌・旭川・函館・釧路・北見の各都市のコンベンション誘致支援機関及び北海道で構成されており、2008年に開催された「北海道洞爺湖サミット」で培われたノウハウと、各構成都市のネットワークを最大限に活用して、「北のおもてなし」で、力あふれる印象深いコンベンションの開催をサポート。

【構成機関】

(公財)札幌国際プラザ
(一社)旭川観光コンベンション協会
函館市／(一社)函館国際観光コンベンション協会
北見市観光協会連絡協議会
釧路市／(一社)釧路観光コンベンション協会
北海道／(公社)北海道観光振興機構

◇ URL http://www.conventionsapporo.jp/hokkaido_convention

◇ メールマガジン <http://conv-promotion.mash-net.jp/regist.asp>



北海道コンベンション誘致促進助成金

1. 助成の対象となるコンベンション

2日間以上にわたって開催される学会、会議等のうち「北海道外(外国を含む)からの参加者が全体の2分の1以上」かつ「開催される市町村またはコンベンションビューロー等から助成金が交付されるもの」であって、次のいずれかに該当するもの。

- ア 参加者が300人以上であり、かつ、そのうち外国からの参加者が50人以上の規模で開催される国際的なコンベンション
- イ 参加者が1,000人以上の規模で開催される全国的なコンベンション

2. 助成限度額 100万円～300万円

※主催者が国または地方公共団体のもの、営利または収益を目的としたもの等は、助成の対象外です。

※再来年度以降開催のコンベンションについて申請が可能です。

<助成金に関する詳細(北海道観光局HP)>

<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/kz/kkd/370-convention/convention.htm>

<北海道による国外への情報発信>

クールHOKKAIDO

北海道のあらゆる魅力や産業の強みを丸ごと世界に発信して「北海道」のブランド力を高め、輸出や誘客、路線拡大などにつなげる取組

北海道150年

「北海道」と命名されて150年目の節目を迎える2018年に、本道の歴史や文化遺産、各地域の魅力や活力を道内外に発信する取組など、オール北海道による道民参加型の記念事業を展開



北海道150年

- ・2018年に、本道が1869年に「北海道」と命名されてから150年目という節目を迎えます。
- ・新たな北海道の飛躍に向けて、北海道の歴史や文化、そして私たちの暮らしを改めて見つめ直す機会となります。



国際会議等の北海道での開催推進について 各省庁の皆様のご支援・ご協力をお願いいたします



北海道の新たなキャッチフレーズ
その先の、道へ。北海道
Hokkaido. Expanding Horizons.



キョウト
こころにくる旅。
北海道
HOKKAIDO

【お問い合わせ先】

北海道総合政策部国際局国際課プロモーショングループ
(担当：浦崎、宮崎)

〒060-8588 札幌市中央区北3条西6丁目
TEL：011-231-4111 (内線：21-214)
011-204-5114 (グループ内直通)
FAX：011-232-4303